

---

# M大写真部副部長の喧騒

柏木杏花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

M大写真部副部長の喧騒

### 【Nコード】

N0777Z

### 【作者名】

柏木杏花

### 【あらすじ】

M大写真部。ここは個性が強すぎる後輩が、むやみやたらと集まってくるサークルだ。絶世の美女にしか見えない一年男子とその彼女。その彼女の辛辣な女友達。ブログの女王に、鉄道マニアの撮り鉄。こんな写真部の副部長を、なぜか平凡きわまりない俺がつとめている。いろいろあるけど、それなりに平和にやってきた。だがある日、俺に許嫁が湧いて出た。しかもその許嫁が小学生ってなんぞなんだ！俺は自慢じゃないけど十歳年下より、十歳年上の方がいいんだよ。こういう価値観って十年後も二十年後も、変わらない

と思ってるのに！ イマドキの草食男子、松浦惣介のだいたいドタ  
コメ。ちよつとラブコメ。軽くて楽しい話がお好みの方は、お試し  
ください。

## 第一話

### 突然の婚約話

「惣介、ちよつと惣介」

「はあ？ なに？」

その日、土曜日の午後だというのに、珍しく家でゴロゴロしてたのが悪かったのか、晩ごはんを作ってるお袋にからまれた。

俺は松浦惣介。<sup>まつらそうすけ</sup>M大経済学部三年、写真部副部長。他に特筆すべき事柄は、あいにく持ち合わせていない。

自分で言うのも虚しいが、どこにでもいる普通の大学生だ。

「いい若者がだらだらと鬱陶しいわね。あんた、つきあってる彼女とか、いないの？」

「いないよ」

リビングのソファアに寝そべり、雑誌に目を落としたまま、俺は生返事だ。彼女がいたら、土曜に家でゴロゴロしてるわけがない。

平和だ。平穏だ。平凡だ。

子どもの頃から住み慣れた住宅街の一戸建て。夕飯の準備にいそしむ母親から多少からまれたとしても、どつてことはない。

この日はM大の学祭が終わって最初の土曜日だ。副部長という名ばかりの肩書のせいで、写真展ではメインで働いてきたから、家でこんなのにんびりするのも久しぶりだった。

もっとも今夜は写真部の打ち上げコンパだから、夕方には出かけるのだが。

「情けないわね。せっかくひとが、そこそこイケメンに産んであげたつてのに、覇気がないつたら……」

「覇気がないのは、まあ認める。万事無難つてのは、俺の個性なんだよな。無難が個性つてのはちょっと変か。」

「だいたい、イケメンにそこそこつて付けてる時点で、産んだ本人も息子を平均点だと評価してるつてことだ。親の欲目つてのはないのかな。」

「まあでも、ちょうどいいわ」

「なにが？」

「実はあんた、許嫁がいるのよ」

「はあ~~~~~?」

平凡な俺の、平凡な人生は、こんなひと言で転がり始めた。

許嫁……?」

「許嫁つて、もしかして、もしかしなくても、婚約者みたいなもんだよな? みたいというより、そのものなんだろうけど、いきなり許嫁の存在を突きつけられた男なんて、この程度は取り乱すだろう。それにしたつて、この平成のご時世に、結婚相手を親が決めるなんて、一般庶民があり得るの? あり得ないよなあ。」

「母さん、それ、なんの冗談?」

手に持っていた雑誌をテーブルの上に放り出して、俺は座り直した。対面式のシンクで料理の下ごしらえの手を休めることなく、お袋は平静を保っている。

「冗談なんかじゃないわよ。どうせあんたのことだから、だれが相手でもたいして変わらないんでしょう。ならいいじゃない」

「違うないわけないだろ。なに言ってるんだよ。だいたい、俺まだ大学生なんだから、結婚なんてあり得ないし……」

「だれがいますぐ結婚しろなんて言ったのよ。婚約よ」

そんなに違わないだろ。いますぐか、あとかの違いじゃないか。

「とにかく、相手くらい自分で探すから、許嫁とか完全に却下だからね」

「ものすごく可愛い子なのよ。気にならない？」

「ならない」

「ほら、それよ」

それって、なんだよ。勝ち誇ったみたいに、ふんぞり返って。

「普通、年頃の男子大学生が、許嫁がいて、その子が可愛いって訊けば、どんな子が気になるはずじゃない。それが間髪入れずに気にならないって言い切るのは、おかしいわよ。異常よ。非常識よ」

「非常識なのは母さんだろ。だいたい、万が一『気になる』とか言

「つたら、一気になだれ込んで結納の日取りは……とか決めかねないじゃないか」

「そんなトラップに引っかかるほど、俺も伊達に二十一年間、お袋の息子をしてはいないんだ。」

「……まさか惣介、あんたホモか不能じゃないでしょうね」

「言うに事欠いて、なんて推測をしゃがるかな、このおかんは。」

「で、どっちなの？ 白状しなさい」

「ちょっと待て。なんで二者択一なんだよ。」

「どっちも違います！」

「いい加減、怒鳴りたくなってきたが、あいにくチャイムが鳴ったので、俺は気を削がれた。」

「惣介、出てよ。いま手が離せないわ」

「今夜のおかずはハンバーグか餃子なんだろうな。お袋の手が、ひき肉の油でテカテカに光っていた。」

## 第一話

### 突然の婚約話（後書き）

はじめまして。お読みいただいて、ありがとうございます。

もう少し煮詰めてから投稿したかったのですが、結局、見切り発車です。

できるだけ、2、3日以内に更新していきたいのですが、途中で止まるかも（<|>、）

4日以上間が空くときは、活動報告でお知らせします。

久しぶりのコメディイですけど、読んだ人がコメディイのジャンルに入れてくださるのか、妙に不安な船出です。

お気づきのことなどありましたら、教えていただけると嬉しいです。明日も更新予定です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0777z/>

---

M大写真部副部長の喧騒

2011年12月2日22時55分発行